

## 2023年に徳島県で採集された小蛾類の記録

外村俊輔<sup>1</sup>

[Shunsuke Tomura<sup>1</sup>: Some records of Microlepidoptera collected in Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan in 2023]

**Abstract** : Some newly recorded, alien, or distributional notable microlepidoptera species, *Micrerethista denticulata* (Tineidae), *Chrysorthenches muraseae* (Glyphipterigidae), *Idioglossa polliacola* (Batrachedridae), *Epimarpitis hiranoi* (Batrachedridae), *Demonarosa rufotessellata* (Limacodidae), *Metacosmesis laxeuta* (Carposinidae), *Metaeuchromius flavofascialis* (Crambidae), and *Pyrausta inornatalis* (Crambidae) were collected from Tokushima Prefecture, Shikoku in 2023. These were collected using light trap and by searching for larval host plants.

キーワード：鱗翅目，外来種，キバガ上科，メイガ上科，イヌマキ

### はじめに

蛾類は鱗翅目 Lepidoptera のうち、チョウ類に該当する 6 科を除くすべての科を含むグループで、大型種が多く派生的な分類群で構成される大蛾類と、小型種が多く祖先的な分類群で構成される小蛾類に慣用的に大別される(駒井, 1998)。小蛾類の多くは開張 10 mm 前後と微小であるほか、種同定には詳細な形態観察や解剖による交尾器形態の検討などを要する場合が多いため、分類、生態の解明、相調査といった研究が大蛾類に比べて不十分な傾向にある。

蛾類を含む鱗翅目の幼虫のほとんどは植食者であり(那須, 2011)、各種(特に単食性の種)の分布は寄主植物や環境条件などに依存することが多い。本研究の調査地である徳島県は、西部の亜高山帯性針葉樹林から落葉広葉樹林、低地の照葉樹林、太平洋沿岸部や島嶼の亜熱帯性植物まで、多様な環境や植生が発達している(阿部, 1990)。そのため、徳島県内(以下、県内)の蛾類の種多様性は環境の多様性に準じて高いことが予想される。また、徳島県は近畿地方の都市部に近接していることから、大都市圏に定着した外来種が侵入する頻度が高いと考えられる。これらの背景から、県内の蛾類相の把握は環境の変化や外来種の侵入を迅速に察知する上で重要であると考えられる。

県内における近年の小蛾類の動向に関して、三好市剣山や海陽町などで相調査が行われており、少数の地点かつ短期間での調査にも関わらず多くの四国初記録種が報告されている(広渡ほか, 2012; 2015; 2022)。これらの結果から、県内における小蛾類相の解明度は依然として低いことが示唆される。このような背景を受け、筆者は県内における小

蛾類相を解明するために、各地で調査を行ってきた。本稿では、筆者が 2023 年に県内で灯火採集や幼虫採集などによって採集した小蛾類のうち、四国初記録種を含む分布上特筆すべき種について報告する。標本は徳島県立博物館(Tokushima Prefectural Museum: TKPM)に保管されている。

### 方法

2023 年に県内の各地で夜間に水銀灯、ブラックライト、HID ランプを用いた灯火採集を行い、誘引された小蛾類の成虫を採集した。また、寄主植物などを探索して幼虫の採集、飼育を行い、成虫を得た。その後、外部形態を用いて種同定を行った。和名と学名、分類体系は主に神保(2021)に従った。

(LT: 灯火採集)

### 結果

#### ヒロズコガ科 Tineidae

##### シロナガヒロズコガ亜科 Harmacloninae

#### 1. イッテンシロナガヒロズコガ *Micrerethista denticulata* Davis, 1998 (図 1-A, 2-A) 四国初記録

徳島市佐古山町眉山: 3 ♂, 16.VI.2023, LT.

徳島市大原町日峰山: 3 ♂, 7.VI.2023, LT; 7 ♂ 1 ♀, 2.VII.2023, LT.

灰銀色の細長い前翅と、静止時に前翅後縁の鱗粉塊が背

2023 年 11 月 4 日受付, 12 月 20 日受理.

<sup>1</sup> 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-chô, Tokushima 770-8070, Japan.

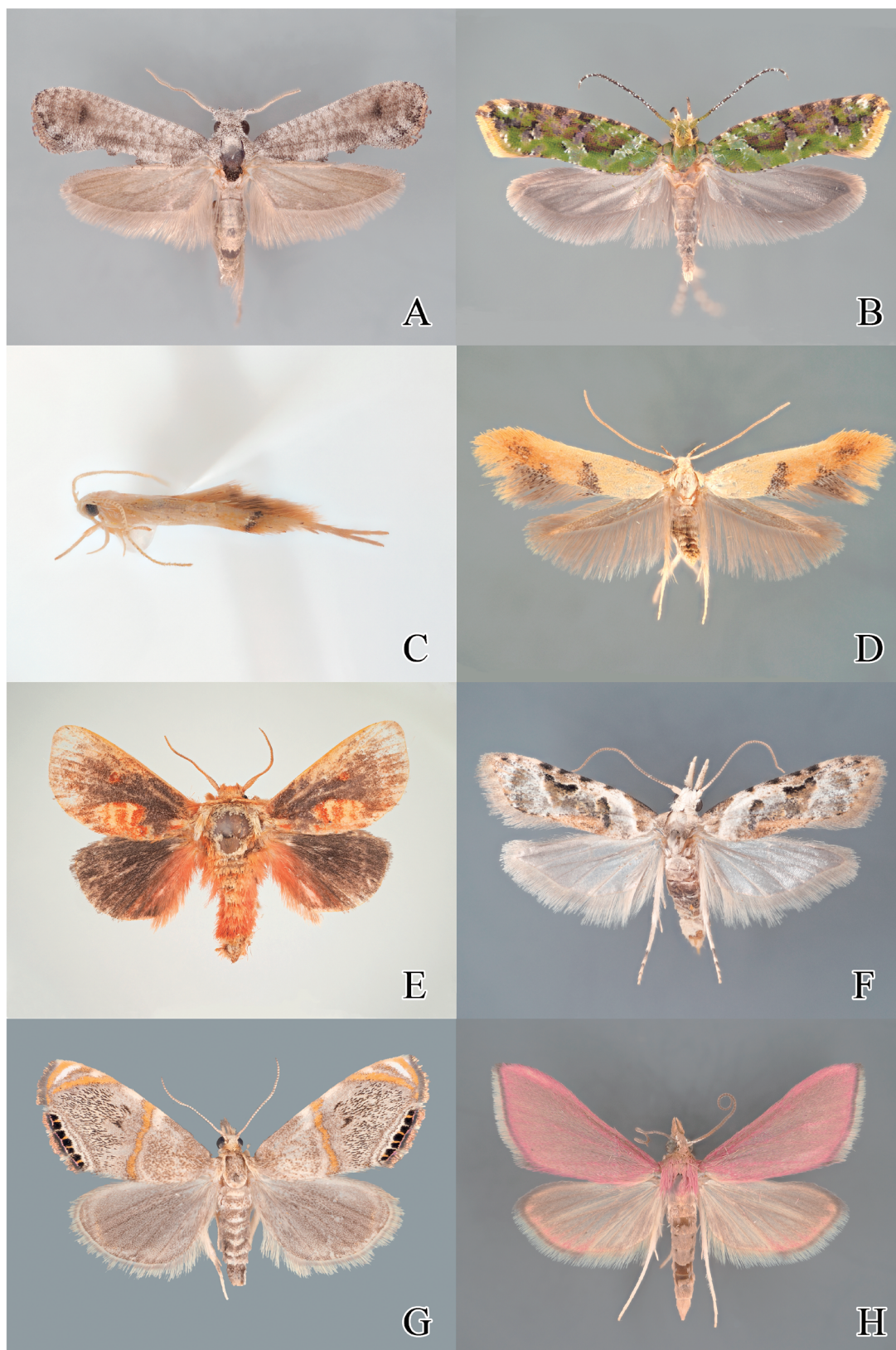


図1. 2023年に徳島県で得られた小蛾類. A, イッテンシロナガヒロズコガ *Micrerethista denticulata*; B, *Chrysorthenches muraseae*; C, ヤブミョウガスゴモリキバガ *Idioglossa polliacola*; D, ヒロバスゴモリキバガ *Epimarptis hiranoi*; E, ベニイラガ *Demonarosa rufotessellata*; F, シロズシンクイ *Metacosmesis laxeuta*; G, キオビカナサンツトガ *Metaeuchromius flavofascialis*; H, アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis*.

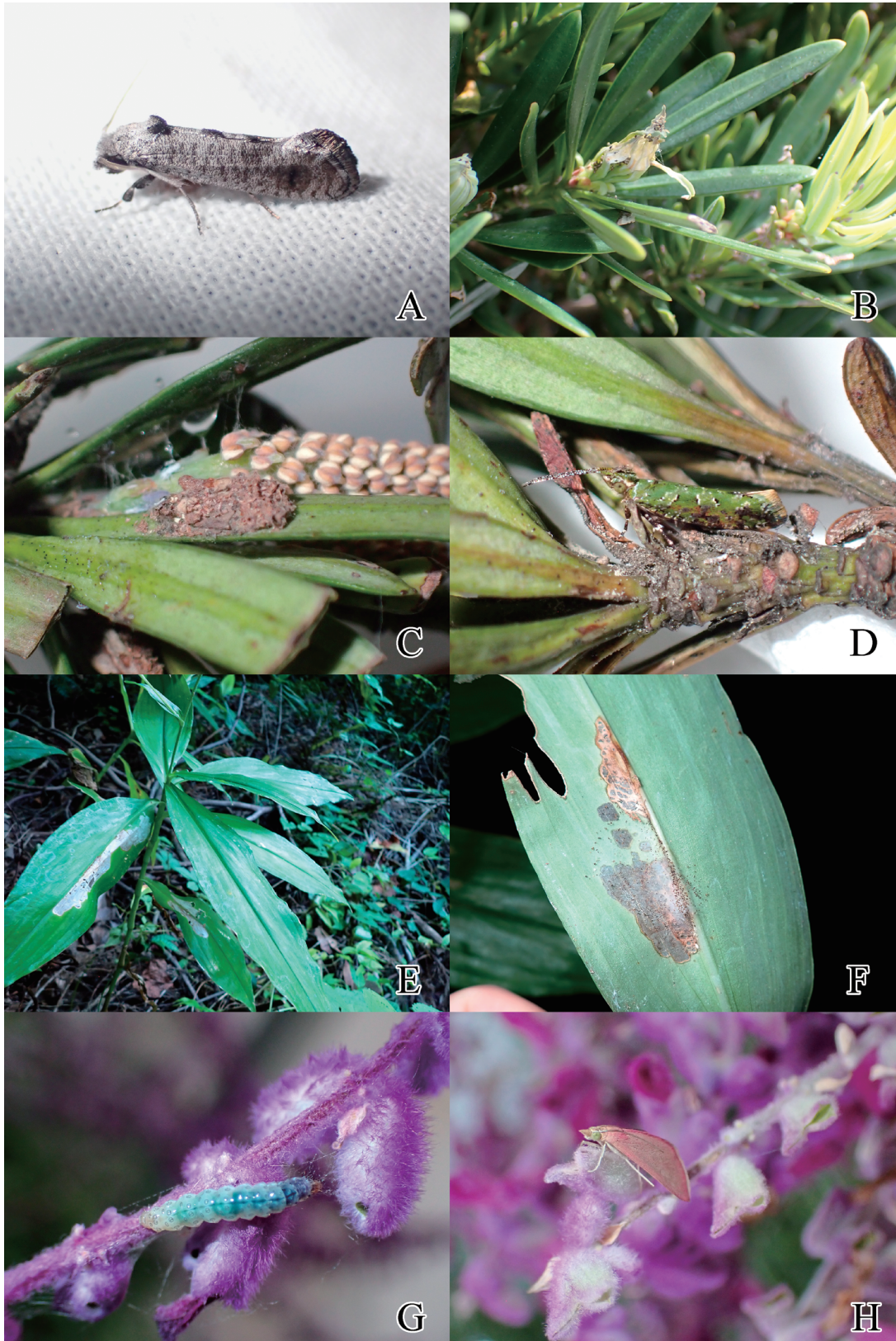


図2. 2023年に徳島県で得られた小蛾類の生態。A, イッテンシロナガヒロズコガの静止姿勢；B, *Chrysorthenches muraseae*の幼虫が営巣するイヌマキの新芽；C, イヌマキの葉裏に作成された*Chrysorthenches muraseae*の繭；D, 羽化した*Chrysorthenches muraseae*；E, ヤブミョウガスゴモリキバガの幼虫が営巣するヤブミョウガの葉；F, ヤブミョウガの葉裏に作成されたヤブミョウガスゴモリキバガの巣；G, アメジストセージの花蕾を綴るアメリカピンクノメイガの幼虫；H, アメジストセージの花蕾に静止するアメリカピンクノメイガ。

方に逆立つことが特徴である（図 2-A）。国外では中国から東洋区にかけて分布し、国内では本州、九州（宮崎県）から知られる（Kodama and Hirowatari, 2023；鈴木ほか, 2022）。県内では、徳島市の低山地の照葉樹林などの灯火採集で確認された。幼虫はブナ科のコナラ *Quercus serrata* Murray の枯死木に穿孔し、木質部やおが屑などを摂食することが最近明らかになった（Kodama and Hirowatari, 2023）。

### ホソハマキモドキガ科 Glyhipterigidae

#### 亜科和名未定 Orthoteliinae

#### 2. *Chrysorthenches muraseae* Sohn and Kobayashi, 2020 (図 1-B, 2-B, C, D)

徳島市八万町向寺山：26.V.2023, larvae, 2♂ 3♀, 13.VI.2023 羽化, 1♂ 2♀, 14.VI.2023 羽化, 1♀, 19.VI.2023 羽化；31.V.2023, larvae, 2♂, 19.VI.2023 羽化；10.VI.2023, larva, 1♂, 23.VI.2023 羽化。寄主：イヌマキ。

2020年に新種として記載された、暗緑色の光沢のある細長い前翅が特徴の種である（Sohn et al., 2020）。本州（静岡県以西）、四国（高知県）、九州（熊本県）から記録があり、幼虫はマキ科のイヌマキ *Podocarpus macrophyllus* (Thunb.) Sweet. の新芽を綴って内部を摂食し、葉裏に繭を作成して蛹化する（後藤・屋宜, 2022；四国産蛾類図鑑, 2023；Sohn et al., 2020）。原記載では四国の分布記録として高知県の個体の撮影記録が示されている（Sohn et al., 2020）が、標本は扱われていない。県内では、5月下旬から6月上旬に徳島市の文化の森総合公園に植栽されているイヌマキの新芽から幼虫が採集され、葉裏で糞を綴って繭を作成して蛹化し、採集から3週間程度で羽化した（図 2-B, C, D）。本種は前翅などの形態がスガ科に類似しているため、記載される以前から“イヌマキミドリスガ”という和名が用いられてきたが、原記載での分類学的検討によりスガ科ではなくホソハマキモドキガ科に配置された（Sohn et al., 2020）。所属の混乱を避けるため、ここでは和名を付記していない。

### ホソキバガ科 Batrachedridae

#### 3. ヤブミョウガスゴモリキバガ *Idioglossa polliacola* Sugisima, 2000 (図 1-C, 2-E, F) 四国初記録

徳島市眉山町大滝山：22.VIII.2023, larva, 1♂, 10.IX.2023 羽化。寄主：ヤブミョウガ。

徳島市佐古山町眉山：26.X.2023, larvae。寄主：ヤブミョウガ。

前翅と後翅は黄色で、各翅に4個の銀色の斑紋を有することが特徴である。日本固有種で、本州と九州、沖縄

島に分布し、幼虫はツユクサ科の主にヤブミョウガ *Pollia japonica* Thunb., まれにツユクサ *Commelina communis* L. などの葉裏にドーム状の巣を作成して葉を摂食する（Sugisima and Arita, 2000；富永, 2019；外村・屋宜, 2022）。県内では、徳島市の眉山の山麓と林道沿いのヤブミョウガで巣が確認された（図 2-E, F）。

#### 4. ヒロバスゴモリキバガ *Epimarpis hiranoi* Sugisima, 2004 (図 1-D) 四国初記録

板野郡上板町泉谷：1♂, 22.VI.2023, LT.

美馬市木屋平川上：1♂, 17.VI.2023, LT.

三好市東祖谷剣山：1♀, 15.VII.2023, LT.

前翅は黄褐色で、後縁中央と肛角に三角形の褐色斑を有することが特徴である。国外では韓国、国内では本州と対馬に分布し（Sugisima, 2004；外村・屋宜, 2022）、幼虫はさまざまな広葉樹の葉裏にブローチ状の巣を作成して葉を摂食する（Heo, 2021；奥, 2017）。県内では各地の森林での灯火採集に少数が飛来した。

### イラガ科 Limacodidae

#### 5. ベニイラガ *Demonarosa rufotessellata* (Moore, 1879) (図 1-E)

海部郡牟岐町灘：1♂, 26.VI.2023, LT.

前翅は赤褐色で、前翅後縁に黄色帯を伴う紅色の斑紋を有することが特徴である。国外では東洋区、国内では四国（愛媛県、高知県）、九州（大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県）の沿岸部の森林と琉球列島に分布し（片岡, 2017；川島, 2017；真鍋, 2008；永井, 2020；佐々木, 2013）、大分県レッドデータブックでは情報不足（DD）に選定されている（大分県自然保護推進室, 2022）。県内では牟岐町の沿岸部の森林での灯火採集で得られた。幼虫の寄主はマンサク科とブナ科が知られる（佐々木, 2013）。

### シンクイガ科 Carposinidae

#### 6. シロズシンクイ *Metacosmesis laxeuta* (Meyrick, 1906) (図 1-F)

海部郡牟岐町灘：1♀, 26.VI.2023, LT.

前翅の基部が茶褐色で、中央に黒褐色の弧状斑を有することが特徴である。国外では中国、スリランカ、ジャワ島、国内では四国（高知県）、九州（長崎県、鹿児島県）、屋久島、石垣島に分布する（真鍋, 2014；那須, 2013；西澤, 2021）。県内では牟岐町の沿岸部の森林での灯火採集で得られた。幼虫の寄主はコミカンソウ科のカンコノキ *Glochidion obovatum* Siebold and Zucc. が知られる（那須, 2013）。

ツトガ科 Crambidae

ツトガ亜科 Crambinae

7. キオビカナサンツトガ *Metaeuchromius flavofascialis*

Park, 1990 (図 1-G)

阿南市福井町下原：1♂, 6.VII.2023, LT.

海部郡海陽町王余魚谷：1♂ 2♀, 15.VII.2023, LT.

前翅の地色は灰褐色で黒色鱗を散布し、中央の黄色帯が1本になることが特徴である。韓国をタイプ産地として記載され (Park, 1990), 中国からも記録がある (Li et al., 2009). 国内では2007年に徳島県で初めて確認された (佐々木・永井, 2007). その後、本州 (長野県, 愛知県, 三重県) と四国 (愛媛県, 高知県) で散発的に記録されている (真鍋, 2010; 間野, 2016; 間野・佐々木, 2008; 増井, 2013; 田島, 2021). 県内では各地で記録があり (広渡ほか, 2015; 増井, 2013), 今回の調査では阿南市と海陽町の谷沿いの森林において灯火採集で得られた。幼虫の寄主は不明。

ノメイガ亜科 Pyraustinae

ノメイガ族 Pyraustini

8. アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* (Fernald, 1885) (図 1-H, 2-G, H)

鳴門市大麻町大谷搦原：1♂, 24.IX.2023.

徳島市八万町下福万：1♂, 28.V.2023; 26.X.2023, larva, 1♂, 10.XI.2023 羽化。寄主：アメジストセージ。

前翅と後翅後縁、体節背面が鮮やかなピンク色を呈することが特徴である。北アメリカ大陸を原産地とする外来種で、国内では2020年に岐阜県で初めて確認され (宮野, 2020), 以降は本州の秋田県から山口県, 四国 (愛媛県), 九州 (福岡県) まで分布を拡大している (片岡, 2023; 松井, 2023; 松永, 2022; 梅津, 2022; 山本, 2022). 幼虫は園芸店や花壇などで植栽されるシソ科のアキギリ属 *Salvia* (サルビア, セージ等) の花蕾を糸で綴って摂食することが知られる (次田ほか, 2021). 県内では鳴門市と徳島市の住宅地で発見され、徳島市ではアメジストセージ *Salvia leucantha* Cav. の花蕾を摂食している幼虫と、花蕾に静止する成虫を確認した (図 2-G, H). 県内各地の園芸店や花壇などで発生して分布を拡大している可能性が高く、今後とも動態を注視する必要がある。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、文献を恵与いただいた佐々木公隆氏 (九州産業高校), 上原友太郎氏 (九州大学), および標本写真を撮影いただいた鈴木佑弥氏 (徳島県立博物館)

に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部近一, 1990. 徳島県植物誌. 580 pp. 教育出版センター, 大阪.
- 後藤聖士郎・屋宜禎央. 2022. *Chrysorthenches muraseae* の九州からの記録. *Pulex*, (101): 946-947.
- Heo, U. 2021. Guidebook of Moth Larvae 3. 430 pp. Econature, Paju.
- 広渡俊哉・小林茂樹・池内 健・長田庸平・山田量崇. 2015. 剣山系の蛾類(2) — 2010-2011年の調査結果 —. 徳島県立博物館研究報告, 25: 25-40.
- 広渡俊哉・小林茂樹・池内 健・山田量崇. 2012. 剣山系の蛾類 (1) — 2009年の調査結果 —. 徳島県立博物館研究報告, 22: 45-55.
- 広渡俊哉・屋宜禎央・鈴木信也・外村俊輔・小林茂樹・山田量崇. 2022. 徳島県海部郡海陽町2地点での蛾類調査 — 2012年の調査結果 —. 徳島県立博物館研究報告, 32: 13-25.
- 神保宇嗣. 2021. List-Mj 日本産蛾類総目録 [version 3]. <http://listmj.mothprog.com/> (2023年11月1日閲覧)
- 片岡敬一. 2017. 愛媛県蛾類採集記録. 365 p. 愛蝶会, 愛媛.
- 片岡敬一. 2023. 愛媛県におけるアメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* の採集記録. *いよにす*, (39): 97-99.
- 川島保夫. 2017. 四国産の蛾類 (5). *げんせい*, (93): 23-28.
- Kodama, H. and Hirowatari, T. 2023. Biology on immature stages of wood-boring *Micrerethista denticulata* Davis (Tineidae, Harnacloninae): The world's first report of the immature stages of the subfamily. *Lepidoptera Science*, 74 (3): 59-73.
- 駒井古実. 1998. 鱗翅目の分類体系と小蛾類の位置づけ. 保田淑郎・広渡俊哉・石井 実編, 小蛾類の生物学, p. 137-145. 文教出版, 大阪.
- Li, W. C., H. H., Li and M. T. Nuss. 2009. Notes on the genus *Metaeuchromius* Bleszynski (Lepidoptera: Crambidae: Crambinae) from China, with description of two new species. *Zootaxa*, 2287: 55-63.
- 真鍋泰彦. 2008. 横浪半島の蛾類 (1). *げんせい*, (84): 35-39.
- 真鍋泰彦. 2010. 南四国の記録しておきたい蛾類 2. 誘蛾燈, (199): 15-19.

- 真鍋泰彦. 2014. 南四国の記録しておきたい蛾類4. 誘蛾燈, (217) : 83–88.
- 間野隆裕, 2016. ハマキガ科・メイガ科・ツトガ科. 豊田市生物調査報告書. <https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/kankyousizen/1016111.html> (2023年11月1日閲覧)
- 間野隆裕・佐々木明夫. 2008. キオビカナサンツトガの本州(三重県)からの記録. 蛾類通信, (250) : 452.
- 増井武彦. 2013. ソトモンツトガとキオビカナサンツトガの四国の追加記録. 蛾類通信, (268) : 452–453.
- 松井悠樹. 2023. アメリカピンクノメイガを鳥取県で確認. 月刊むし, (632) : 53–54.
- 松永紀代子. 2022. アメリカピンクノメイガ(ツトガ科ノメイガ亜科)の発生(筑紫野市光が丘). 虫の目、鳥の目通信, (181付録) : 8.
- 宮野昭彦, 2020. 日本未記録のピンク色のノメイガ. 誘蛾燈, (239) : 1–2.
- 永井 彪, 2020. チョウ目(蛾類). 岩崎郁雄編, 宮崎県昆虫目録, p. 241–319. 宮崎昆虫調査研究会, 宮崎.
- 那須義次. 2011. 鱗翅類の食性の多様性. 駒井古実・吉安裕・那須義次・斉藤寿久編, 日本の鱗翅類—系統と多様性, p. 37–48. 東海大学出版, 神奈川.
- 那須義次. 2013. シンクイガ科. 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則編, 日本産蛾類標準図鑑 IV, p. 303–306. 学研教育出版, 東京.
- 西澤正隆. 2021. 長崎県未記録及び県本土未記録の蛾類3. 誘蛾燈, (246) : 199–212.
- 大分県自然保護推進室, 2022. レッドデータブックおおいた2022. <https://www.rdb-oita.jp/data/10214/> (2023年11月1日閲覧)
- 奥 俊夫. 2017. 身の虫雑記VIII. 岩手蟲乃會會報, (44) : 22–24.
- Park, K.T. 1990. Two new species of Pyralidae (Lepidoptera) from Korea. Korean Journal of Entomology, 20: 139–144.
- 佐々木明夫. 2013. イラガ科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則編, 日本産蛾類標準図鑑 III, p. 318–325. 学研教育出版, 東京.
- 佐々木明夫・永井洋三. 2007. 日本未記録のツトガ亜科の1種. 蛾類通信, (242) : 306.
- 四国産蛾類図鑑. 2023. <http://homepage64.private.coocan.jp/z41shikokugaruizukan.html> (2023年11月1日閲覧)
- Sohn, J. C., S. Kobayashi and Y. Yoshiyasu. 2020. Beyond Wallace: a new lineage of *Chrysorthenches* (Lepidoptera: Yponomeutoidea: Glyphipterigidae) reveals a journey tracking its host-plants, *Podocarpus* (Pinopsida: Podocarpaceae). Zoological Journal of the Linnean Society, 190: 709–739.
- Sugisima, K. 2004. Discovery of the genus *Epimarpitis* Meyrick, 1914 (Gelechioidea: Coleophoridae s.l.) in Japan, with the description of a new species. Nota lepidopterologica, 27 (2/3) : 199–216.
- Sugisima, K. and Y. Arita. 2000. A new species of a gelechioid genus, *Idioglossa* Walsingham (Lepidoptera, Batrachedridae, Batrachedrinae), from Japan. Transactions of the Lepidopterological Society of Japan, 51 (4) : 319–336.
- 鈴木信也・野中俊文・水野利彦・佐々木公隆・外村俊輔・岸田泰則. 2022. 2021年7月16日及び17日に宮崎県で得られた蛾類. 誘蛾燈, (248) : 105–113.
- 田島 尚. 2021. 長野県におけるキオビカナサンツトガの記録. 蛾類通信, (298) : 626.
- 富永 智. 2019. 沖縄における蛾類幼虫の採集地記録6 (14) (15) (19) (20) (34) (39) (53) ~ (56). 琉球の昆虫, (43) : 54–76.
- 外村俊輔・屋宜禎央. 2022. 九州初記録のスゴモリキバガ類. *Pulex*, (101) : 935–937.
- 次田 章・沼田和洋・田中淑喬. 2021. 相模原市(神奈川県), 町田市(東京都)および平塚市(神奈川県)におけるアメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* の発生確認. やどりが, (268) : 2–10.
- 梅津一史. 2022. アメリカピンクノメイガを秋田県で採集. 誘蛾燈, (250) : 193.
- 山本匡章. 2022. 下関市内のアメリカピンクノメイガとヤママユ. 山口のむし, (22) : 64.